平成 26 年度第 2 回 光産業技術標準化国際シンポジウム

平成26年度の2回目の光産業技術標準化シンポジウムが、「レーザ機器の安全・安心－医用レーザ機器の安全－」をテーマに、競輪のサポートを受けて、国際シンポジウムとして、欧州のレーザ安全の権威を迎え、平成27年2月24日（火）に、光産業技術振興協会 A会議室にて、30名を超える参加者の下、開催された。

会場風景

まず、当協会専務理事の小谷泰久の開会挨拶において、今年度改正されたIEC及びJISのレーザ安全の基本規格における「クラス1C」という新規クラス分けなど、医用レーザ機器の安全性について国際規格では継続的に新しい考え方が導入されており、近畿大学の橋新裕一教授及び欧州からWolfram Gorisch博士を招待してその動向を解説いただくという、本日の標準化シンポジウムの趣旨を紹介した。

橋新裕一教授

Wolfram Gorisch博士

シンポジウムは、まず橋新教授が医用レーザ安全規格の導入として、日本の医用レーザ安全規格の現状を紹介し、続いてGorisch博士が国際規格全般の最新動向を紹介していただくという進め方で行われた。

最初の講演者である近畿大学の橋新教授には、「日本の医用レーザ安全基準等の現状」と題して講演いただいた。橋新教授は、IEC/TC 76/WG 4（医用レーザ装置の安全性）の委員として活躍されているばかりでなく、JIS C 6802（レーザ製品の安全基準）の原案作成委員会の委員長でもある。それらの立場から、保険

が適用されるレーザ治療の紹介、JIS C 6802の改正の変遷、レーザ安全の基本的な考え方、光・レーザに関連するJIS及び国際規格、法令による日本のレーザ規制について、わかりやすく講演をしていただいた。また、トピックスとして、レーザ脱毛は医師免許を有しないものが行うと違反、刺青除去の未承認器販売は薬事法違反などについても紹介していただき、聴講者からは、医療用に用いる光・レーザ分野の安全規格の導入として、非常にわかりやすかったとの声が多かった。

続く講演者のドイツのGorisch博士からは、「医用レーザの安全規格－機器設計と人体への安全な使用に関する国際規格－技術と応用の最新動向」と題して講演いただいた。Gorisch博士は、IEC/TC 76/WG 4（医用レーザ装置の安全性）のコンビーナとして活躍されており、①人体へのレーザ応用と基本原理、②医用レーザ分野の技術・応用・法規・市場の最新動向、③プロ用・家庭用各応用に対する医用レーザの安全規格に分けて、説明していただいた。聴講者からは、丁寧な語り口でとてもわかりやすかったとの声が多かった。

橋新教授から、標準の専門家を育てていく重要性が聴講者に対して投げかけられた。また、Gorisch博士からは、特別に、今回のスライド原稿と審議中の安全規格のドラフトが聴講者に配布された。「レーザ機器の安全・安心」をテーマにした標準化国際シンポジウムはこれで一応の区切りを迎えるが、このような企画を続けてほしいという意見もあり、今後もレーザ安全規格の最新動向を紹介できるような標準化シンポジウムが実現できるよう当協会として検討していきたい。

RING!RING! プロジェクト 競輪補助事業